

## 保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 白波会
施設名	シーガル保育園
報告者（役職）	菊地 美鈴（園長）
住所・連絡先	千葉県船橋市飯山満町 2-1007-1
	☎ 047-404-7611
	E-mail seagull2014@nifty.com

○タイトル（保育計画）

おはなし だいすき！！

○主な助成備品

絵本・紙芝居・図鑑

### 1. 保育計画策定の目的

当園は平成 26 年 4 月に地区的な待機児童解消策として、公募により市の土地を借りて開園した認可保育園です。定員人数が 120 名、一時保育も実施しているため準備しなければいけない備品は数多く、限られた予算の中で備品準備を進めたので、必要最低限しか購入できませんでした。日々不足している物は優先順位を付けながら購入してきましたが、日頃から子ども達にたくさん触れて欲しい絵本や紙芝居、図鑑などはまだまだ不足していました。

絵本は貸したり貸してもらったりのやり取りも大事ですが、順番を待たずに自由に読めたり、集団で楽しめる大型絵本や紙芝居などで想像する世界や、言葉や文字に触れる機会を増やしたい。また、分からない物を図鑑で調べるなどの探求心を満たしてあげたい、保護者と子どもの癒しとなるべき時間を提供したいなどの思いから、保育計画の策定を致しました。

### 2. 具体的な実施内容

今まで取り入れてきた先生に読んでもらう絵本や紙芝居をみんなで見たり、一人ひとりが自由に選んで好きな物語の世界に入れるように、各クラスでの本棚の充実はもちろん、1階と2階に用意されている、乳児用・幼児用の本棚の充実を図りました。

乳児用・幼児用の本棚はクラスの本棚以上に冊数が少なかったなので、お迎え時に立ち寄って親子で絵本コーナーを利用し読み聞かせをしている親子はごくわずかで、いつも決まった親子が立ち寄っていました。本棚の充実により今まで興味を持たなかった親子も興味

を持って立ち止まり、帰宅前の親子での触れ合いの時間を持ち、親も子ども絵本により癒されたりリフレッシュしてから、忙しい夕方の時間を乗り切れるささやかな時間を過ごして欲しいと願い、狭いスペースですが腰かけやすいベンチやマットなどを用意しました。

また、普段食育関係で利用している絵本や紙芝居などを紹介することで、保護者にもより興味関心を持って家庭での会話やお手伝い、クッキングや食への興味へ繋がれば良いと考えて準備しました。

乳児クラス(0～2歳児)は、先生と1対1での読み聞かせも取り入れ、物の名前や言葉への興味、会話のやり取りなどから絵本への親しみを増やしていきたい。また、友達同士での絵本の貸し借りの仲立ちも重要ではありますが、自分の見たい絵本を自分だけでじっくり読みたい時期でもあります。その為にはひとクラスで同じ絵本が数冊必要なことが多く、じっくりと自分だけの時間を持つことが出来、思いが満たされるとお友達に貸したり譲ったりすることが自然にできるようになってきます。そうすると、1冊の絵本をみんなで囲んで仲良く読んだり、1対1で保育士に絵本を読んでもらえる楽しさも分かってくると思います。

また、大きな紙芝居をみんなで見ることによって絵本では味わえない、ダイナミックな仕掛けなどで物語を楽しむことが出来、普段経験することが出来ない経験や想像を豊かにしてくれると思うので、同じ絵本を数冊準備したり、みんなで見やすい絵本や繰り返しの言葉が入った絵本などを中心に準備しました。



幼児クラス(3～5歳児)は、絵本から様々な情報を得て、生活の場で生かしたり、知らない虫を調べたりと生活と密着したものから、経験したことがない物語から想像したり、それをヒントに演じてみたりと自分達の表現へと繋がっています。3歳児の後半になると文字への関心も出てくるので、読みやすい短い絵本により文字へ親しみやすくしたり、4・5歳児は物語性の強い長編絵本へも興味が広がり、昔話や想像して楽しくなる物語への関心が強くなります。自分で読むだけでなく人にも読んであげたいと思うので、読みやすいみんなが知っている昔からの絵本なども充実させ、絵本から友達との交流を広げ、1人でじっくり読むことで集中力を高めたり、文字などへの関心から小学校就学へと繋げていきたいと準備しました。



また、当法人が取り組んでいる食育関係でも、実物で見せられない物や体の中の構造などを、教材または絵本や写真などの視覚から見て感じることで、より分かりやすく身につけやすくなるため、今まで保育士が手作りで準備していた教材に加え、食育関係の絵本や紙芝居を使って、種まき・苗植え、成長・お世話の仕方や栄養についてよりリアルに、導入として取り入れることが出来て、今まで以上に分かりやすい食育への取り組みや興味関心が望めることを期待し準備しました。



### 3. その成果と評価

乳児クラスでは、今まで通りの1対1での読み聞かせは勿論のこと、集団での読み聞かせにも大型絵本や紙芝居を取り入れることで、より興味を持って集中して聞き入る姿が見られるようになりました。



また、冊数が増えたことにより、自分が好きな絵本を自由に見ることができるようで、思いが満たされるのか、絵本の貸し借りも保育士の仲立ちでスムーズに行われるようです。

繰り返しの絵本では言葉を真似したり、動きに合わせた掛け声では動きや言葉を真似してみたりと、言葉への繋がりも感じられています。

幼児クラスでは、みんなで1冊の絵本を囲んでクイズをひも解いてみたり、宝探しをしたりしています。また、年長は昔話の絵本から「ももたろう」の劇を作り上げ、地域の老人施設やクリスマス会で保護者などに披露しました。

散歩に行くとどんぐりを拾ってきて、この実はどの種類の実なのか？

運動会前にはオリンピックの影響で、万国旗づくりをするためにはどんな国旗があるのか？

給食ででた「いよかん」と「夏みかん」の違いはなにか？など、日々気になることは図鑑を広げみんなで調べて議論をしています。



1階と2階に準備した本棚では、保育室での絵本の充実から、より絵本に興味をもった子どもが保護者に催促して、お迎えの際に読んでもらってから帰る姿が目立つようになりました。中でも日頃母親との関係を心配していた親子が、頻繁に絵本を読み聞かせている姿を見掛け、「お母さん忙しいのによかったね。」と声をかけると子どもは嬉しそうにし、保護者は「家に帰ると慌ただしくて絵本を読んであげる時間もないので、1冊や2冊の時間しかないけれど…」と言いながらお膝に抱いて読んであげていました。時には父親が読んであげている姿もみかけ、ささやかな時間が提供できて良かったと思っています。



#### 4. 今後の課題と展望

各クラスではより本棚の充実を図り、季節や子ども達の興味関心に合わせて本棚の入れ替えを行ったり、保護者への紹介も続けていきたいと思っています。

また、1階と2階に準備した本棚は、廊下に設置してあるため親子で読むには場所が狭いので、もう少し自由に読める場所に広げたり、夜寝る前の儀式として絵本の読み聞かせを取り入れやすいように、絵本の貸し出しについても検討したいと考えています。

以上